

麻布十番地下公共駐車場建設について

特集

《区議会議員・こさい太郎よりみなさまへのご報告》

9月の定例区議会において、82億円余の債務負担行為の補正予算が上程され、審議の結果、賛成多数で可決されました。これは、麻布十番駐車場の事業主体である(株)みなと都市整備公社が、万が一、借入金の返済が不能になった場合、港区の予算から最大82億円の肩代わりを約束するというものです。つまり、区民の税金を担保に銀行から建設費を借りたいという事なのです。勿論、事業が成功すれば問題はありませんが、この審議を通してさまざまな問題点が露呈しました。

本紙では、その問題点を明らかにすると共に、私がなぜ疑問の意思表示（議案には反対）をしなければならなかったのかをお伝えしたいと思います。

麻布十番地下公共駐車場とは？

平成2年、おりしもバブル全盛期、港区では当時の駐車場不足、違法駐車を増加を解消するため、地下鉄の建設計画に便乗する形で、麻布十番の地下に公共駐車場（350台）を建設する事になった。この際、官の持つ公平性・公正性と民間のもつ経営力・資金力・技術力等を総合して事業展開を行なおうと、第三セクターの「(株)みなと都市整備公社」を平成3年4月に設立し、建設に着手した。

港区が約70%出資という事で公共性が保たれると同時に、株式会社という事で収益をも追求しようというねらいである。現在は、地表より約4メートルほど掘り進んでいる。

当初の計画から今日に至る経緯

当初は建設費118億円を見込み、資本金の60億円（内港区は44億円出資）と、日本開発銀行などの融資や補助金等でまかなう計画であった。一台あたり3000万円の建設費と高額ではあったが、当時の状況や駐車場の公共性を考えるとやむを得ないところもあった。

一台あたり3000万円→5000万円へ！工費大幅アップの原因

ところが、平成3年に118億円だった建設費が平成6年には何と196億円へと、何と78億円も増大した。何故このようになったのか、当局からの理由説明は別表の通りである。

しかし、埋設物の防護や地下水対策など事前に調査し把握する事は本当に不可能だったのか、疑問が残る。

今年度になり、機械式駐車場の導入などにより170億円まで工費を削減したが、それでも、一台あたり4900万円という破格の駐車場建設に変わりは無い。

裏面へ続きます→

工事費増大の理由	
埋設物移設等の工種の追加	5億円
近隣建築物の擁壁防護・地盤改良	33億円
地下埋設物等の防護	12億円
地下水対策による土留壁の工法変更	2億円
計	52億円
工事単価の変動	20億円

港区がこの駐車場建設の借入金の損失補償（約八十二億円）をすることが決まる
「さきがけ・みなと」をはじめ十四名が『疑問』の意思表示
(こさい太郎)

今後の見通し 《赤字の膨らむ駐車場経営・銀行も融資に尻込みか？》

このままの計画でいくと平成11年に駐車場は開業するが、港区の予測では、単年度黒字の発生は13年後の平成23年、累積黒字の発生は28年後の平成38年になるという。しかしこの予測の根拠がまた疑問なのである。その根拠は別表に示すが、稼働率予測や料金設定などは近隣地域と比較しても非現実的で、第3セクターで利益を追求するどころか半永久的に採算のとれない事業だといっても過言ではない。また、銀行もこの

料金設定	時間貸	350円／30分 (4年毎に50円値上げ)
	定期貸(夜間のみ)	63000円／月 (4年毎に9000円値上げ)
予測稼働率	開業年度	15%
	2年目	20%
	3年目以降	25%

ような状況を危ぶみ、区民の税金を担保に求めてきたといえなくもなさそうだ。隣の渋谷区でも、麻布十番より立地のよいと思われる渋谷区役所付近に、同じような第3セクター方式で駐車場を建設し完成しているが、稼働率は当初の予想25%を大きく下回り10%前後しかなく、年間8億円の赤字(元利償還含)を生じ大問題になっているという。

82億円余の損失補償、可決成立へ

この議案は総務常任委員会で審議が行なわれた。友好会派である、みなと・緑風の上田議員の綿密な調査を基にした質問を中心に、連日深夜にわたる審議が行なわれたが、前述の疑問点への明確な回答や経営改善への具体的方途も示されなかった。しかしながら、委員会、本会議とも賛成多数で82億円余の損失補償は可決成立した。

私は総務常任委員会の所属していないので、ほとんど全ての審議を傍聴し、議案への態度を決定する事にした。そして、本会議において、本事業への警鐘をうながし疑問の態度を示すという意味で、議案には反対の立場をとった。

麻布十番駐車場建設問題に対する私の考え方と

区議会の新しい風のきざし

私は、このモータリゼーション社会において、また都心港区において、都市施設としての公共駐車場の必要性を打ち消すものではありません。しかし、これまで明らかにしたように、麻布十番の駐車場建設は、余りにも計画がずさんで開業後の採算性にも多くの疑問が残っています。万が一、借入金を返済できず赤字を垂れ流す事は、厳しい港区の財政状況の中で到底許されるものではありません。

納税者である区民の立場に立てば、現時点での多少の費用を覚悟してでも、長い目で見て一時建設を中断して、可能な限り低コストで採算性を重視した計画を再検討すべきではないかと考えました。この件は、友好会派の一票の会の秋元議員、みなと・緑風の上田議員とも意見は一致しましたが、今回は微妙に立場の違う他の会派でも、大筋で同調する会派が出るのではないかとこの事で、本会議で上田議員が少数意見として発表した後、採決の際に反対の意思表示をする事になりました。

結果、私を含む一人会派三名以外に、第一自民党三名・共産党七名・自民党議員団からも一名の同調者が出て、合計十四名の議員が反対に廻り、区政への警鐘を促す事ができました。十四名という数だけでなく、与党と目されていた自民党会派が加わった事により、行政側も重大に受け止めているはずで、港区議会において「新しい風」のきざしが生まれ、またその小さなきっかけになれた事だけは大変よかったと思つて

最後に(ごさい太郎よりみなさまへ)

今回は多額にわたる税金の使い道に関する問題という事で、緊急に「たろう通信」を発行いたしました。「たろう通信復刊号」をお送りしてからと思いましたが、どうかお許し下さい。

次号にて詳しく選挙後からこれまでの活動についてご報告する予定ですが、この場を借りてまずもって、選挙の際の絶大なご支援・ご協力に感謝の意を表したいと思えます。本当にありがとうございます。

この麻布十番の駐車場問題と同じように、不況の折、区民のみなさんの納得できるような税金の使い方をチェックする必要があります。私は、当選させて頂いた四年の任期の中で、みなさんの声をお聞きしながら、一言でいえば「ハコもの」中心の区政を改めていきたいと考えています。今後ともよろしくお願いいたします。